

自分や仲間たちの実体験、愛知県のアンケート調査の回答を調べてまとめました

学校でどんなことで困る？

みんなと同じにできないことが色々あった

「家族の協力がある宿題(音読)や用意(牛乳パックなど)ができない」
「宿題が終わらない」

→「できるかどうか確認してもらえて相談ができた」

事情を話しても伝わらなかった

「訪問介護士の人が退勤する前に家に帰らなければならない」

→「『ただのお手伝い』だと思わず話を聞いてほしい」

生活リズムが整わない

「夜中に起きる必要がある」「授業中寝てしまう」
「宿題をやる時間がない」「ずっと疲れている」

→「言われて初めて自分が大丈夫じゃないと気づけた」
「気づいてもらえて自分の状況を話すことできた」

進路選択に不安を感じる

「進路について考える時間がない」「相談できる相手がいない」
「やりたいことや家庭環境に合った進路がわからない」
「一生家族のケアをしなければならないのではと思う」

→「自分で気づけなかった強みを教えてくれたり
進学先を調べてくれたりして進路が決められた」

学校でどんなことが助けになる？

相談しようと思いつけない

「相談すべきことだと気づかない」
「真剣に話を聞いてくれる大人が身近にいない」
「うまく伝わらない」「自分からは話しにくい」

→「先生からきっかけをつくってくれると話しやすい」
「話すだけでスッキリした」
「話せなかったけど嬉しかった」

家族の精神的ケアをしなければならない

「愚痴をたくさん聞かされてつらい」
「大人の喧嘩の仲裁をしなければならない」
「嘘でもいい子でいるしかない」「甘えられない」

→「学校で楽しく過ごせるだけで気持ちが楽だった」

外国人の家族の通訳をしなければならない

「家族に学校や日本の文化が伝わらない」
「語彙がなくてうまく通訳できない」
「保護者が書く書類を自分が書いている」

→「保護者にお知らせがうまく伝わっているか気にしてくれると助かった」

学校の中だけじゃない困りごと

属性ばかりで自分の気持ちが無視される

「自分では思わないのに、大変そう、かわいそうな子扱いされる」

「『障害者・外国人の子どもだから』『長男・長女だから』、

しっかりしなきゃ、しっかりして当然と言われる」

→「気持ちを伝えたときにはそれを尊重してほしい」

周囲が自分の家族に優しくない

「自分の大事な家族が悪く言われるのが嫌だった」

「障害のある家族について周囲にいろいろ言われてつらかった」

→「もっと病人や障害者に優しくしてほしい」

自分を優先してもらえない・できない

「もっと遊んでほしい」「真剣に話を聞いてほしい」

「自分が好きにできる時間がない」

「一人のとき何をしたいか、自分が好きなことがわからない」

→「家族ではなく自分を見てくれて嬉しかった」

ケアがうまくできないつらさがある

「トラブルはどうしたらいいかわからない」

「子どもにはできないことが多い」「できなかったときに罪悪感や無能感がある」

→「『できなくてもいい』『子どもなんだからできなくても当然』と教えてほしい」

20代・30代のヤングケアラー経験者から 先生へのメッセージ

私たちが子どもだったとき、学校は私たちが個人として社会と繋がれるとても大切な場所でした。

学校で安心して活動できることはヤングケアラーがのびのびと自己を育てる力になり、一方で学校でうまく過ごせないことは傷つきの理由になります。学校にいる彼らはどんなことに困って、どんなことに助けられているのか。

少し前まで当事者であった大人として、経験者にしか語れないことをヤングケアラーへの関わり方に悩む先生方に伝えるために、私たちはこのパンフレットを作成しました。

先生方にとってはささいなことも、私たちのようなヤングケアラーには大事な支えとなります。

このパンフレットが少しでも先生方の参考になり、ヤングケアラーの子どもたちの助けになれば幸いです。

(YCS啓発企画チーム)

